

4Hクラブと大阪ガス連携

今年度は消費者との交流に重点

料理教室で農産物の魅力発信

府内の若手農業者で構成される大阪府4Hクラブ連絡協議会は7月20日、大阪ガスキッチンスタジオと連携して、旬の農産物を使った料理教室「大阪農業応援！農家直送大阪産（もん）DEクッキング」を開いた。この料理教室は昨年度から取

り組みを始めて2年目。今回の開催にあたり、参加する4Hクラブの会員から「もっと消費者との交流に重きを置いた内容にしたい」という提案があり、従来は多く組み込んでいた料理時間を削減し、その分交流の時間を多く設けるプログラムに組み

替えた。この日は消費者23人が参加し、4Hクラブから羽曳野市の藤井貫司さんがイチジクを、富田林市の安井裕太郎さんがピーマンを、岸和田市の南孝信さんが水なすを、羽曳野市の川崎佑子さんがオクラとイタリアントマトをそれぞれ料理教室に提供した。当日は、参加農家と消費者の交流が活発に行われた。中でも消費者から質問が多かったのは、提供した農産物のこだわりのポ

イントや、おいしい食べ方、旬の時期などで、農家ならではの視点を交えながら農産物の魅力を伝えた。参加した4Hクラブのメンバーは、「生産者にはない消費者目線の意見や質問もいただいたので、自分自身にとっても非常に刺激になった」と今回交流の時間を増やしたことへの手応えを語る。

私の住む八尾市では、「第6次総合基本計画」のもと、昨年に都市農業振興基本計画が、消費者も参加して、スタートした。ぜひ希望あふれる明るい我が町の都市農業の未来を示して推進していただきたい。



消費者からの質問に熱心に応じる4Hクラブの若手農家

「じゃがいもができてたよ！」

「こっちからもできてたよ！」

農家のご好意で、一日畑を開放していただいた。夏休み子ども消費者教室の1コマである。

私がこれまで消費者運動として取り組んできたものは、

○子どもの中から消費者教育を進める

○泣き寝入りしない消費者相談室（令和3年度の相談件数 1229件）

○消費者情報誌の発行、FMラジオの情報発信、街頭啓発他

随想

柱としてとりあげてきた。例えば、戦後、日本の農業は、経済復興に追いやられてきたように思う。「苦勞して作らなくても、安い外国の物を」、「海外のめずら

運動歴は、今年で60年になる。この間、全国消費者大会や、米の消費拡大、全国大会に常に参加し、農業の重要性を発信してきた。そして農業の問題は、消費者運動の重要な運動の一つの

しい果物や野菜が食べたい」、「価格、値段の安い物を・・・」

今、世界は危機的状況といっても過言ではない。ロシアのウクライナ侵攻など、社会不安がたちこめている。今年6月には、

私の子供は、決して暗くない。次の世代の子どもたちの未来のために、つくる人、つかう人、SDGs、共に手をとりたい。都市農業ビジョンのもと歩んでいくことを希求する。私たちの都市農地、農家を

守る強い思いで、今後も、消費者運動を皆様のご支援・ご協力で、つづけていきたい。



次の世代の子どもに

特定非営利活動法人関西消費者連合会

理事長 角田 禮子

4年半ぶりに世界貿易機関（WTO）の閣僚会議が開催され、穀物やエネルギーなど、食料安全保障が論議されたが、糸口はみつかっていない。

昭和37年来、消費者からの苦情相談窓口を開設。被害の未然防止、高齢者、子ども見守り、消費者教育、健康、医療環境問題など、市民のいのち（安全安心）を守り、くらし（消費者生活）を高め、学び（生涯学習）を進める。活動を推進。一般社団法人産業環境管理協会、リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰審査委員、「一般財団法人主婦会館評議員」、「医薬品PLセンターIPL審査会委員」、「大阪府献血推進審議会委員」などを歴任。

◇筆者の紹介（かくた ひろこ）